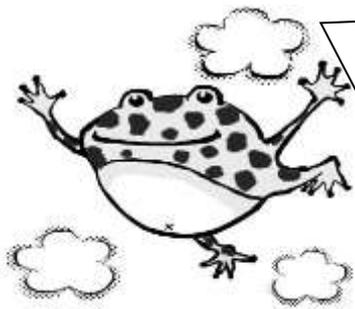


かえる便り 30年度12号

平成30年7月3日

猛暑の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日本のワールドカップは終わりました。大変素晴らしい試合をしていただけたのに、決勝点に至る過程は残念ですね。一人ひとりがハードワークし組織的によく守ると同時に、リズムの良いパス回しで何度か敵ゴールを脅かす日本の良さを出していただけたのに、勝ってブラジルと対戦してほしかった…。最後のCKは考え方を考えるべきであったと思うのですが…?。高さという絶対に変えることができない技術と時間帯を考えたら違う方法をとって欲しかった。本当に良い試合をしていただけたのに終わり方が…。日本のような体格的に恵まれていない選手でもやればできることを証明してくれて感謝です。私たちもあのようなチームを目指したいものです。



準備をすることがどれだけ重要かは、誰も知っています。しかし、目指したことに對して多面的な見方をして様々な準備をしているかと言えば ? に思います。例えば、食事の摂り方一つとっても、鍛錬期、試合期、試合の数日前から直前など異なります。練習前後の話しや講習会で聞いている筈ですが、実行している人は少ないですね。何を目指しますか？

『競技者にとって記録を目指すことは大事なことです。しかし、僕がハンマー一投げを続けているのは記録のためばかりではない。人間の肉体と、そこに宿る精神とに興味があるからです。だから、どんなに練習しても飽きません。試合で記録が出ても出なくても、そこから新たなテーマが生まれるんです。人間の肉体の可能性や、心を鍛錬することへの興味はますます大きくなっていく。』 室伏広治

彼の父親は3度オリンピックに出場、日本選手権10連覇など素晴らしい実績を残していますが、息子には県外の高校を勧めています。「人として成長させるために、家族と離れて暮らすことで得られる様々な経験は、これから先の人生にも必要だと言って数校を選び出した後、『きちんと挨拶ができる素晴らしい選手を育てている指導者のところがいいだろう』と言って進学先を決めています。そこで、彼は『人間としての基本と人間に必要な大切なものを学んだ』そうです。

“部員達が智翠館に来てよかった”と言えるよう努力をしていきたいと思ひます。